

2019.3.14(木) 19:00▶21:30

まつもと市民芸術館 オープンスタジオ

JR松本駅より徒歩約10分。劇場の駐車場はございません。民間の駐車場をご利用ください。

会費 WS参加 2,000円(保険料込み) / 聴講のみ 1,000円

定員 WS参加 30人 講師 菅原 直樹 (老いと演劇 OiBokkeShi主宰)

対象 認知症に興味のある方、介護施設など職員の方、演劇に興味のある方など

申込・問合せ 「シルク・ドゥ・シルク」プロジェクト (担当:今井)

Tel : 090-4418-3011 / Mail : silk2014cirque@gmail.com

老いと演劇のワークショップ

認知症と仲良くなるう

※上記の電話あるいはメールにてお申し込みください。折り返しこちらからご連絡致します。
※お申し込みいただく場合は、体験か聴講か、参加人数、お電話番号をお知らせください。
※ワークショップを体験される場合は、定員(30名)になり次第、受付を終了させていただきます。聴講のみの方はその限りではありません。
※受付は3月12日(火) 18:00までです。

撮影:松原豊

高齢化社会は決して他人事ではありません。そこで生じる問題の一つが認知症です。認知症になると、物忘れや勘違いが増え、何をすることも時間がかかり、ときには失敗をしてみます。それは認知症になったら必ず生じる中核症状が原因です。そのときに介護者に求められるのは、ほけを正すことではなく、ほけを受け入れることではないかと考えます。たとえ現実ではありえないことでも、相手のストーリーを引き受けて演じる。それは、お年寄りの心を傷つけず、寄り添うことにつながるのではないのでしょうか。参加者のみなさんには「演じる」体験をしていただきます。「演じる」といっても、決して演技術の向上を目指すものではありません。ワークショップでは、対話を実践し、その対話で起きたことを反省するための機会として、体験していただきます。うまく「認知症患者」を演じられた、うまく「介護者」を演じられたということがゴールではなく、関係の機微を感じることに目的があります。これは演劇を借りたコミュニケーションの実践でもあり、また私たち老いや認知症の理解を進めることにつながります。



撮影:松原豊

講師プロフィール 菅原 直樹

老いと演劇 OiBokkeShi主宰 / 俳優 / 介護福祉士
演出家 / 劇作家 / 四国学院大学非常勤講師
1983年栃木県宇都宮市生まれ。平田オリザが主宰する「青年団」に俳優として所属。小劇場を中心に前田司郎、松井周、多田淳之介、柴幸男、神里雄大など、新進劇作家・演出家の作品に多数出演。2010年より特別介護老人ホームの介護職員として働く。



WORKSHOP 遊び/テーション

認知症の人や障害を持ったお年寄りに「遊び」を通じてリハビリをしてもらう方法論を体験していただきます。身体を使った遊びは演劇の原点です。「できる」「できない」にこだわらず、「できない」ことも楽しむ、遊びの価値観を介護現場に取り入れていきます。

WORKSHOP 認知症の人とのコミュニケーションを考える

認知症の人を囲んで

5人一組で雑談をし、その中の1人に「認知症の人」役になってもらいます。「認知症の人」役には、演劇の台本を渡し、周りが雑談をしているときに好きなタイミングで台本に書かれている台詞を発してもらいます。周りがその脈絡のない言葉を否定したときと肯定したとき、「認知症の人」役にどのような気持ちの変化が生じるのかを疑似体験してもらいます。

イエスアンドゲーム

介護士の食事の声かけに対して、食事に行きたがらず「田植えをする」と言う認知症の人。参加者に「介護士」役と「認知症の人」役を交互に演じ、認知症の人の言動を受け入れるコミュニケーションを体験してもらいます。こういったシアターゲームを通じて、認知症にはこういった中核症状があり、BPSDが生じるメカニズムについて解説します。

主催 「シルク・ドゥ・シルク」プロジェクト

一般財団法人

共催 松本市芸術文化振興財団

「シルク・ドゥ・シルク」プロジェクト

岡谷・諏訪地域・長野県をはじめとする製糸業の歴史を持つ街を舞台に、サーカス・大道芸を通して製糸業や街についてPRする事業を行うことを軸にしながら、そこに暮らす人びとの興味と笑顔を創出するとともに、街への誇りを持ち活気を生み出す活動を目的とする。「笑顔を創出する」「街への誇りを持ち活気を生み出す」企画はアート全般を切り口に行っている。